

21世紀の緑を考える

グリーン・エージ 2019

3

GREEN AGE



特集：公園や緑をプラットフォームとした協働の仕組みづくり

- 風景を使いこなすデザイン / 忽那裕樹
- 都心の地域づくりにおける公共的空間 / 福井恒明
- 地域で使い倒す公園像と愛されるその公園管理 / 磯脇桃子
- 花の心プロジェクト —江戸ルネサンス 伝統と文化が薫るおもてなし— / 台東区
- 2020 を機に日本の夏も花の季節に！ 造園・園芸 垣根を越えて！ / 竹谷仁志
- 公園・緑のまちづくりを進めるための情報ツールの構築 / JLAU

地域で使い倒す公園像と愛されるその公園管理

—西東京いこいの森公園—

特定非営利活動法人 NPO birth 協働コーディネーター部長 儀脇 桃子
(西東京の公園・西武パートナーズ本部)

キーワード：協働、活用、公園、地域の魅力向上

はじめに

公園には、「自然環境」「コミュニティ」「健康・レクリエーション」「教育・あそび」「文化芸術」「防災」「経済効果」と7つの力がある。その「公園力」を高めることで、まちの魅力が高まり、住みよいまちづくりにつながる。NPO birthでは、「レンジャー・環境教育」「協働コーディネーター」「自然環境マネジメント」と3つの専門分野の総合力で「公園力」を高め、自然と共に暮らしながら日々わくわくするライフスタイルを提案している。

現在、都市型の公園から丘陵地の自然豊かな公園まで東京都内70公園の指定管理に携わっている。今回は、地域で公園を使い倒し、愛される公園管理を目指す東京都西東京市の事例をご紹介します。住宅街に点在する54公園で、エリアマネジメントを踏まえた「協働」による公園管理を実践し、年間3万人を超える人々が公園に関わりさまざまな事業を行っている。

1 西東京市における指定管理者導入のねらい

西東京市では、平成29年度より、指定管理者制度が開始された。基礎的自治体では、大小さまざまな公園を多数抱えている。開発に伴う提供公園は、年々増加し、資金不足や人手不足により、細やかな管理が難しい。一方で市民ニーズは多様化し、要望も多い。そこで、指定管理者導入には大きく3つのねらいがある。

1) 市民協働の積極的な推進

市民ニーズに応え、地域や住民の皆さんと共に公園づくりを進めるためには、協働を積極的に推進するコーディネーターが必要である。そのため、西東京市では、「市民協働のノウハウをもった人員」を配置し、市民やボランティア等との協働による公園管理を積極的に推進

することを指定管理者業者仕様書の中で定めている。

2) 自主事業活性化による市民サービスの向上

民間活力を活かしたさまざまなイベントや事業を行うことで、市民サービス向上が期待されている。

3) 公園管理経費の抑制

指定管理者独自で事業収入を得て、その収益を公園管理に還元することが可能である。そのため、行政による管理時より、公的な公園管理運営費の投入を抑制しつつ、市民サービスの向上が期待できる。

2 西東京市の指定管理エリアについて

対象公園は、西東京市の北部に位置する54の公園群である(2018年4月現在)。最少15m²、最大4.4ha、合計約8ha。住宅街にある大小さまざまな公園群を管理している。

公園群の中で最大の面積(約4.4ha)を誇る「西東京いこいの森公園」は、管理所があり、職員が常時勤務する拠点となっている。その他、スケート広場や噴水、遊具、バーベキューコーナー、ピオトープ、有料駐車場など多様な施設がある。

3 エリアマネジメントによる公園管理

「西東京の公園・西武パートナーズ」は、西東京いこいの森公園及び周辺市立公園を管理している指定管理者である。西武造園株式会社(代表企業)と、構成団体である特定非営利活動法人NPO birth、株式会社尾林造園の3つの団体で構成されている。公園群の管理をエリアとして任されているため、単なる公園管理ではなく、エリアマネジメントの視点をもった公園管理が求められている。実現の鍵は、「協働」である。地域のさまざ

まな主体との協働による公園管理の先に、地域住民による自主発的な地域社会づくりがある。複数の公園をまとめて管理しているからこそできる、新たなパークマネジメント手法を構築したいと考えている。

4 具体的な取組内容

1) 各公園の状況調査・情報の蓄積

公園のポテンシャルを把握するために、各公園の特性(開園の経緯、立地特性、利用状況等)と、公園を取り巻く地域特性(協働団体、店舗や企業、学校・保育園等)を調査している。また、自治体や市民団体による調査資料などの情報を収集。これらの情報を基に各公園の課題や現状を把握。地域特性や公園特性を踏まえた上で、公園のポテンシャルを評価。さらに民間ならではの視点を加え、公園を取り巻く地域の活性化を図っている。



2) 協働事業の促進

市民協働の経験とノウハウをもった「市民協働担当スタッフ(パークコーディネーター)」を配置。課題の抽出と解決策の提案、新たな協働主体の掘起し、公園や地域の価値を高める企画等を行い、公園に関わる多様な団体や市民との関係づくりや活動の活性化を図っている。自治会や学校、地域団体等の活動支援や地域の市



地域団体(自治会等)の活動支援

インラインスケート教室

民団体が運営していた既存のイベントを共催で実施。広報やイベント運営を協働で行うことで、認知度が上がり、参加者数の増加につながった。

3) 公園を使い倒すさまざまな取組

公園や地域のポテンシャルを活かしたさまざまな事業を地域団体や企業等と連携して展開している。事業を運営する資金を生み出すため、参加費や出店料、協賛等、さまざまなマネーロードをつくり事業費を賄っている。バーベキューサービスの運営は、年間約8,000名が利用し、最大の収益を生み出している。また、1日ドッグランや犬のグッズ販売等を行う「ドッグフェスタ」では、地元の団体との協力や企業からの協賛、出店料等で運営している。「公園のイメージが変わった」「イベントが増えて公園に行く楽しみが増えた」等、利用者からは大きな反響を得ている。



バーベキューサービス

ドッグフェスタ

4) 小規模公園の活性化

公園群の大多数を占める小規模公園・緑地では、「利用頻度の低さ」「認知度の低さ」「維持管理の難しさ」等が課題になっている。そのため、協働による仕組みとして、市民・市役所・指定管理者の3者で進める「みんなで育てる小さな公園プロジェクト」を推進している。エリアに分散する小さな公園が、魅力ある公園に生まれ変わることで、地域の魅力や価値を高めるきっかけになる重要なプロジェクトと位置付けている。以下に3つの協働事例をご紹介します。



①小さな公園の有効活用を目指す市民グループ

西東京市では、公園の活用や管理など今後の方向性を示した「公園配置計画」を策定している。その際、市民を交えたワークショップをきっかけに立ち上がったグループが「ひばり日和。」である。小さな公園の有効活用を目指し、地元農家を巻き込んだマルシェや武蔵野大学と連携したワークショップ等を企画運営している。活動時には、公園の清掃や遊具等のペンキ塗りなど美化活動に協力している。



「ひばり日和。」によるイベントとペンキ塗り

②団地再生のエリアマネジメント拠点

「ひばりテラス 118」は、団地再生のエリアマネジメント拠点となっており、レンタルスペースやカフェ、フラワーショップ等が併設されている施設だ。団地や地域を巻き



「ひばりテラス 118」

イベント活用時の様子

込んださまざまなイベントや企画を行っている。隣接する小さな公園をイベントスペースの一部として定期的に活用し、日常的な美化活動に協力している。

③ NPO 法人西東京花の会

市内にある公共花壇のほとんどを手掛ける「西東京花の会」では、ハーブガーデンづくりが行われている。小さな公園がなかなか活用されず、認知度が低い理由として、特徴のなさが挙げられる。そこで、小さな公園を丸ごと花壇にすることで、特色を生み出し、人が集う公園に変える取組を行っている。今後は、ハーブガーデンを活用した講習会等が展開される予定だ。



対象公園の様子

ハーブガーデンの様子

さいごに

公園は「まちづくりの中核」である。地域に点在する公園が変われば、公園を核として地域が変わり、まちの魅力向上につながる。いつもの何気ない公園を地域の皆さんと共に、特別な公園へと変えていきたい。



磯脇桃子(いそわき ももこ)

鹿児島出身。200haの里山公園から15m²の街区公園まで、さまざまな規模の公園において、協働事業を担当。

報告 ▶▶▶ 「2019 ミス日本みどりの女神」が日本緑化センターを表敬訪問

本年1月21日に「第51回ミス日本コンテスト2019」が開催され、藤本麗華(ふじもと れいか)さんが、「2019 ミス日本みどりの女神」に選出された。「ミス日本みどりの女神」は、2015年のミス日本コンテストから新設されたポストで、藤本さんは5代目となる。

藤本さんは今年の全国育樹祭や全国植樹祭などの森林・林業関連のさまざまな行事等での活躍が予定されているが、去る2月26日に(一財)日本緑化センターを表敬訪問した。藤本さんは、宝塚歌劇団の出身で、男役として娘役をリフティングしたこともあるという元気があふれる女性である。「みどりの女神は活動の場が多いので、機会を活かしているいろいろなことにチャレンジしたい」と抱負を語る。今後の活躍に期待したい。(浦田啓充)

